

PLEIADES



満月下、最接近したシュワスマン・ワハマン第3彗星C核
2006/05/12 0:35 (JST) Nikon D70+180mm F2.8ED トリミング
ISO 800+30Sec×4+GPD赤道儀 撮影：柴田健一（旭川にて）

札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

札幌天文同好会50周年

事務局

2006年7月7日は、当会が発足してから、50年目のお目出度い日です。
つきましては、4月例会において、創立50周年記念祝賀会の開催を決定いたしました。
開催日時は、7月例会に併せて、7月1日(土)18:30 札幌プリンスホテル。
日頃例会に参加できない会員の方も、ぜひ、出席していただくよう、ご案内いたします。
詳細はP-5、「事務局より」およびP-6、「7月例会のお知らせ」をご覧ください。

6月例会 出席者の一言

後藤榮雄：5月10日から17日までの8日間、中国の古都西安とシルクロードの要衝であった敦煌へ行ってきました。敦煌は（95° E、40° N）はゴビ砂漠に囲まれたオアシスの街、年間降雨量が50ミリ前後とといいます。14日夜、午後9時半（120° Eの中国標準時）頃ホテルを出て、車で西方の郊外に星を見に行きましたが、真っ暗にならないいうえ少し透明度が悪かったようで3等星までしか見え、午後11時までいて帰りました。シルクロードは敦煌で天山南道と西域南道に分かれ、いずれのルートも砂漠の中に関所がありました。北の玉門関には大きな関門と烽火台の他、近くに漢代の長城が残っていますが、南の陽関は烽火台が残っているだけでした。



玉門関（甘粛省敦煌）

河西回廊地帯を守るため紀元前108年頃築かれた。

ここと、南の陽関が漢代の西の国境であり、この先は漢の権力が及ばない「西域」であった。

（写真は後藤会員が撮影し例会参加者に配布されました）

通常「さばく」は「砂漠」と書きますが、中国は漢字の国、雨が少なくて出来たものは水が少ないという意味で「沙漠」と書きます。

敦煌では莫高窟、榆林窟で36の石窟に入り壁画と仏像を見学しました。広い砂漠を歩いたり駱駝に乗ったりと、別な星へいったような旅でした。

生田 盛：今月は天文活動なし。このところ珍商売に力を入れています。オークションでジャンクビデオカメラを購入し、修理して再オークションに売却するというものです。ジャンク品修理ですから付加価値は大きく2～3倍で売れます。これは特別な例ですが、6万円で購入した業務用ビデオカメラが19万1千円で売れました。面白いのは、値段のことを別にすれば、オークションでは必ず売れることです。

中山 正：シュワスマン・ワハマン第3彗星は5月20-21日に再度確認できました。暗かったですが楽し

めた彗星でした。この時、ピンホールプラネタリウム星座球に星座線をいれて、外から見るようにして使ってみました。3時に地平線から何の星座が昇ってくるのかが判り、彗星探しに役立ちました。

隣（実家）に地デジがやって来ました。とても綺麗ですが、操作がいっぱいあり、老夫婦の手に余っているのが現実です。

越後恵子：先日天文台に行ったら木星の縞がよく見えたので、描くつもりで眺めると、これまで見逃していた部分まで見えたような気がしました。

今年は、雪解けが遅かったので、まだ春の山菜採りを楽しんでいます。

西野 浩：ビクセンの双眼鏡が手に入りましたが、ピントが出ません。何とか工夫してと思っておりますが、仕事が忙しく帰宅時に空を見上げるだけになっています。

5月のムーンライトウォッチングは、13日が曇天のため14日に行いました。土星・月、そして終了間際に木星を見ることが出来ました。50名の方々に楽しんでいただきました。越後さん・中山さん・石塚さん、ご苦労様でした。

石塚宣充：特にありません

柴田健一：会報の編集だけが天文活動でした。

ニュートン天文ピックアップレポート 6月号 (2006)

● NASAニュース

土星の衛星の地下に水の“海”？土星探査機「カッシーニ」の観測により「エンケラドス」から水の氷の粒の噴出（ブルーム）が観測され、地下に液体の水の層が存在する可能性が高いようだ。さらに、表面の氷でできた地殻が流れている様子も発見された。“氷のテクトニクス”とも考えられる。2008年春、カッシーニは再びエンケラドスに接近して観測を予定している。

● アストロノミー・トゥデイ

交信復活！！不死身の「はやぶさ」はやぶさは姿勢を崩しても時間がたてば姿勢が安定する設計になっていて、今回も何とか地球と交信できる方向で姿勢が安定したらしい。しかし、満身創痕の状態は変わらず、順調にいつても2010年6月頃になってから地球への帰還の予定である。

中国の標準時

後藤 榮雄



私は、5月10日から17日まで中国の西安と敦煌に旅行してきたので、中国の時刻制度について紹介したい。

日本の領土の東西は与那国島の東経122° 56分からマ

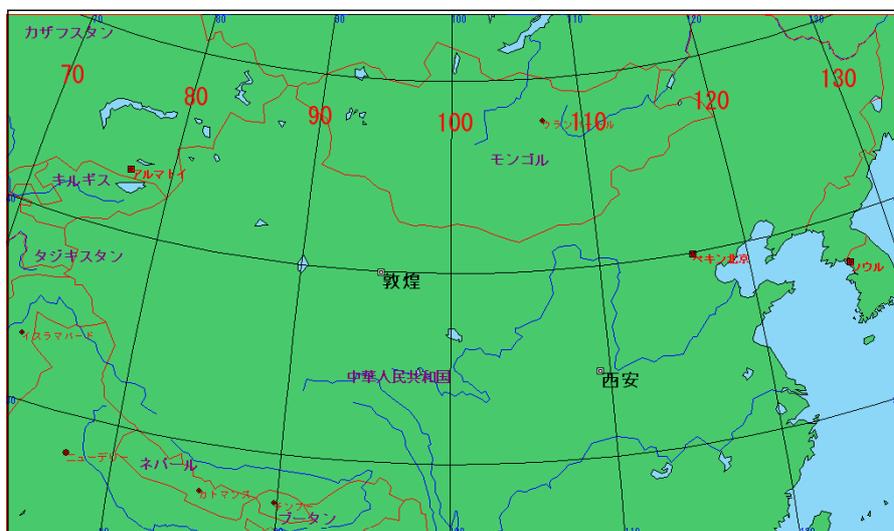
カス島の153° 59' までで、東西の経度差は31° 03' であり、標準時は東経135度の経線を基準にした時刻で、世界時と+9時間の時差があることは承知のとおりである。

これに対して、中国は領土が広く東西の経度差は60° を超えているが、標準時は東経120° を基準とし、世界時との時差が+8時間の標準時1個のみである。東西の経度差が24° のメキシコが2個、経度差が40° のオーストラリアが3個の標準時を持っていることと比較すると、中国の制度は常識を外れているように思える。これによると、ハバロフスクに近い東端の黒竜江省では地方時と標準時との差が1時間で、まだ我慢できるが、キルギス共和国に近い西端のカシュガル地方では地方時と標準時の差が3時間にもなる。役所の窓口が標準時の9時に開くといっても、平均太陽の運行に従う地方時では午前6時に開くことで、冬はまだ暗い。冬至の日における敦煌の日の出時刻は午前8時52分前後であり、勤め人や学生は暗いうちに家を出なければならない。

ではどうしているかというと、西端の新疆ウイグル自治区とチベット自治区では、公文書での表記を除いて東経120° の標準時より2時間遅れの常用時を採用しているというのが実態である。公文書に表示する時刻は全国どこでも東経120° の標準時一つであるという。

私は5月の12日から16日まで新疆ウイグル自治区の東隣の甘粛省敦煌にいたが、敦煌は東経95° に近いので、地方時と標準時との差は1時間40分にもなり、朝はいつまでも暗く、夜は遅くまで明るかった。夏の黄昏どきに街を散歩するのにはよいだろうが、前述のように冬になると通勤や通学する人は薄暗いうちに家を出なければならず大変である。また、夏はいつまでも明るいため星見の時間が短く、星を見るにはまことに不便な国である。

ところで、一番多くの標準時を持っているのは東西の経度差が160° を超えるロシアで、11個の標準時を持っている。このため、モスクワとカムチャツカの時刻差は9時間にもなり、モスクワの本社が活動を始めるときにはペトロハバロフスクの事務所はもう閉まっており、経済活動に影響があるのは避けられない。8個の標準時を持つアメリカや5個のカナダもそうであるが、東西に広い国は時差で損をしているのではないだろうか。そう考えると中国の制度も理解できる。



地図の経度線は東経70° ~ 130° を示している（経度15° で1時間の時差がある）

73P / シュワスマン・ワハマン第3彗星 天文薄明に紛れて出現

中山 正

満月後、17日から探し始めましたが見つからず、20日深夜に確認できました。しかし、肉眼では確認できず、デジカメで固定撮影をして、画像から探しました。月明かりに加え薄明も始まってきましたが、何とか写真がとれました。



20日の夜は24時頃より薄雲が出てきて、諦めて望遠鏡をしまっしまいました。撤収作業が完了した頃、月明かりとともに薄雲がなくなり、星が見え始めました。26時頃にはすっかり晴れ渡り、慌てて三脚を出し、固定撮影で撮影。彗星の位置を確認して、双眼鏡で再確認しました。見た感覚ではB核の尾のはっきりしてC核より明るく見えました。でも写真からはC核の高度が低く

薄明の影響を受けたのと、月明かりの影響で実際より暗く見えたのではと、推測されます。今回は見られただけでもラッキーだったと思います。SW3彗星はこれが見納めになりそうです。

私が天文を始めて40年、一晩で別の彗星を2個見たことはあったと思いますが、眼視規模の明るい彗星を同一視野で2個並んで記録できたことはなかったように思われます。正確には、同一彗星が分裂した姿であり、2個の彗星を記録できたわけではないのですが、分裂彗星ということでも過去にいくつか遭遇しましたが、核が並んで尾をひいている姿は見たことがありません。1995年の木星に衝突したシューメーカー・レビー第九彗星が地球の近くを通っていたらこんな姿が見られていたのでしょうか。

今回の撮影も、デジカメが無かったら彗星は見つけられなかったかもしれませんが、フィルムも捨てがたく、悩むところです。一方でデジカメ用に、明るい望遠レンズや、広角レンズが欲しくなった1ヶ月でもありました。

第1回ムーンライトウォッチング開催報告

中山 正

日時：5月14日（日曜日）午後7時頃～午後9時頃

場所：大通り公園 西4丁目北西角

天候：晴れ時々曇り

観望対象：木星・土星・アルクトゥールス

使用機材：40cm反射・15cm屈折・8cm屈折・

10cm双眼鏡

参加人数：40名程度

協力会員：西野・越後・石塚・中山

開催状況：土曜日は天候が悪く、日曜日に順延しました。比較的暖かく、気流は安定していて、星像は良かったです。皆さんは土星の輪の存在を確認していました。後半は、木星の衛星に歓声が、あがっていました。



大通り公園のシンボル

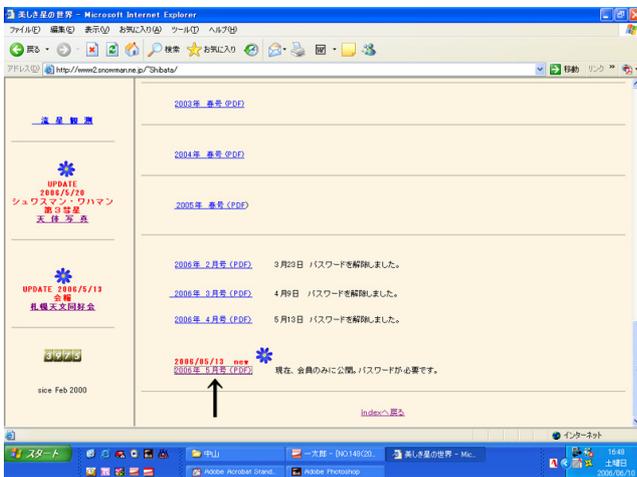
テレビ塔を背景に行われる「ムーンライトウォッチング」

会報をインターネットから ダウンロードする方法

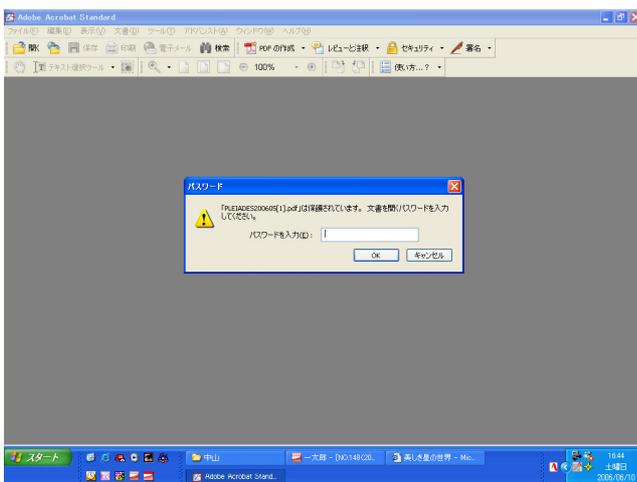
編集局

会報「PLEIADES」の印刷物郵送を辞退し、インターネットから閲覧されている会員から、ネット上で見られない、または印刷が出来ないなどの問題が発生しております。以下の手順で閲覧および印刷をしていただくようお願いいたします。なお、PDFファイルは「一太郎2006」で作成しており、閲覧・印刷は「acrobat reader5.0」以上で可能です。

(1) 閲覧方法



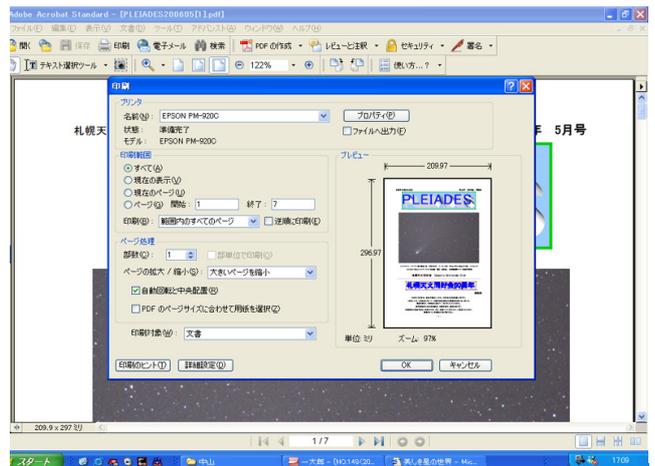
2006年5月号を閲覧する場合は、↑の先をクリックします。



acrobat readerがインストールされていれば自動的に起動し、パスワードを聞いてきます。「satten」と入力します。

自動的に「PLEIADES」の紙面が開きます。

(2) 印刷方法



左上のプルダウンメニュー「ファイル」をクリックすると、「印刷」が現れますので、クリックします。画面で、プリンター名と、プロパティで印刷品質など指定します。

最後に「OK」のボタンを押すと印刷を開始します。

なお、印刷の用紙は「スーパーファイン」「高品質専用紙」(普通紙ではありません)などを想定しています。それにあった用紙の設定で印刷して下さい。

編集後記

創立五十周年記念が開催される。当初、記念行事は行わない予定であったが、今の実力の範囲内、つまり内輪でお祝いすることになった。二十五周年記念では、旭川天文同好会の堂本会長にご祝辞を頂いたのが懐かしい。しかし、良いこともある。現旭川天文同好会長の池田さんは当会の会員でもある。今後も、良い仲間を増やして百周年に向けて歩んでいきたいものである。まずは、七月一日の祝賀会を百年の計に向けて有意義なひと時にするのである。五十年の回顧だけでは消えるのみである。

柴田健一

事務局より

●札幌天文同好会創立50周年記念

7月1日 札幌プリンスホテル（石山通りをはさんだ中央区民センターと反対側）2階芙蓉城にて18時30分より50周年記念祝賀会を開催します。会費は5500円です。二次会は20時30分から28階スカイラウンジで予定しています。参加される方は6月20日まで、事務局中山までご連絡を下さい。会場にはホテルで準備した液晶プロジェクターがあり、思い出の写真やビデオ等の紹介ができます。利用される方はPCなど接続機器をご持参下さい。

●例会場所変更について

中央区民センターが改装工事のため閉館します。新しい会場の候補として、

1. 豊平区民センター 2. 東区民センター 3. 厚別区民センター 4. カデル27（北2条西7） 5. エルプラザ（北8条西3） 6. 札幌市社会福祉総合センター（大通西19）

等の意見が出されました。

事務局としては、①交通アクセスが良い（地下鉄西18丁目駅上）②駐車場が近くにある③予約が1年分可能である、などの理由から社会福祉総合センターを推薦します。

●ムーンライトウォッチング

第1・2回ムーンライトウォッチングの開催（5/14、6/4）ができました。

ご協力ありがとうございました。

7月例会のお知らせ

7月1日（土）18時30分から 札幌プリンスホテル（札幌市中央区南2条西11丁目）芙蓉城（2F）札幌天文同好会創立50周年記念祝賀会のため、**予約が必要**です。

必ず、事務局へ連絡のうえ参加されてください。

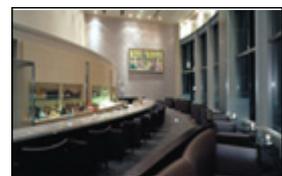
後藤元会長のご挨拶から始まり、柴田会長の祝杯のあと、祝宴に入ります。

祝宴では、参加者の思い出話など、スピーチを行います。

20時30分頃に終了し、札幌の素晴らしい眺望が自慢の28階スカイラウンジ

「トップ オブ プリンズ」で二次会を行います。

なお、祝賀会は二次会付きとなっております。詳細はP-5「事務局より」をご覧ください。



発行：2006（平成18）年 6月20日 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

事務局：〒007-0845 札幌市東区北45条東9丁目2-33 TEL：011-741-8830

中山 正

編集・ホームページ：柴田健一 / 印刷：生田 盛 / 発行部数：10

HP：<http://www2.snowman.ne.jp/~Shibata/>

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会